

平成 27 年度事業報告書

平成 28 年 5 月 21 日

明德保育園 園長 豊田 誠

当該事業報告書は次のとおりであります

保育の目標

保育の特色

1 施設事業運営

(1) 児童処遇

ア 年間入所児童数

イ 園児の健康管理

ウ 栄養管理

エ 保育

オ 園児の安全管理

(2) 職員の処遇

ア 職員構成

イ 職員の健康管理

ウ 労務管理

エ 研修・講習等

オ 職員会議

カ 福利・厚生

2 施設業務運営

(1) 運営関係

(2) 児童処遇

(3) 設備関係

(4) 修繕関係

(5) 災害対策

(6) 年間実施行事

(7) 地域との連携

(8) その他

保育目標

児童福祉の精神に則り、心身ともに健全な乳幼児の保護育成に努める。

乳児

- * やさしいこども
- * あかるくつよいこ
- * じょうぶなからだ
- * ともだちにやさしくするこども
- * がまんづよいこ

幼児

- * 明るく強い子ども（情緒性・健康安全性）
- * 自分のことは自分でできる子ども（自主性・思考性）
- * 進んで物事にとりくむ子ども（積極性・創造性）
- * 友達と仲良くする思いやりのある子ども（協調性）
- * 困難に耐えられる子ども（忍耐力）
- * 話がしっかりと聞ける子ども（集中力）

保育の特色

- ・ 生後 57 日目の乳児から保育を行なう
- ・ 午前 7 時 00 分から午後 7 時まで 11 時間開所保育及び延長保育の実施
- ・ 園舎内における裸足・薄着の励行で丈夫なからだ作りをする
- ・ 給食後の歯みがきの習慣
- ・ リトミック・ことば遊び・体育遊びをとりいれ心身の成長を図る
- ・ 習字遊び（年長児）文字に興味をもつ。
- ・ 散歩、戸外遊びをして情緒の安定を図る
- ・ 衛生指導 爪の検査、子供の健康とからだの仕組みを把握する
- ・ 障害児との統合保育、
- ・ ホームページの掲載充実、デイケアセンターとの交流
- ・ 行事ごと写真入りのお便りをその日のうちに作成して掲示をする。
- ・ 保育の中に食育を取り入れ、給食の素材の手伝うことにより食べることに関心をもち食べる意欲を高める。

1. 施設事業運営

(1) 児童処遇

ア 平成 27 年度入園児童数および今年の特徴

入園児童数は当初 89 名でスタートいたしました。

平成 27 年度年間在籍児童数

	0才	1才	2才	3才	4才	5才	合計
4月	3	15	18	18	18	17	89
5月	3	18	18	18	18	17	92
6月	3	18	18	18	18	17	92
7月	5	18	18	18	18	17	94
8月	8	18	18	18	18	17	97
9月	9	18	18	18	18	17	98
10月	9	18	18	18	18	17	98
11月	9	18	18	18	18	17	98
12月	9	18	18	18	18	17	98
1月	9	18	18	18	18	17	98
2月	8	18	18	18	18	17	97
3月	9	18	18	18	18	17	98
合計	84	213	216	216	216	204	1,149

- ・ 27 年度は子どもの受け入れを定員より多く受け入れ実施したが 0 歳時が 3 名のスタートとなり、職員も 1 名配置となった。その後、徐々に増え 9 月から 9 名の受入となった。各企業で産休・育休が充実してきた事が影響していると考えられるが、それ以上に園舎の古さが大きく影響していると思われる。
- ・ 今年度も支援が必要な子どもがいるため、安全・発育促進のため加算を申請し、認められた。3 歳時クラスは職員の配置改善加算を申請、15:1 の配置とした。今後も発育状況を見ながら必要に応じて対応を行いたい。

イ. 園児の健康管理

園医 内科医 有村医師

歯科医 片山医師 臨床検査 立川臨床

今年度も毎月の乳児検診を含め、全園児の検診や蟻虫検査、歯科検診を実施。

また、毎月1回の身長、体重測定（看護師による）。手洗い、うがい、歯磨きの指導、衛生管理指導、乳児室の消毒、砂場の消毒、調乳室の消毒、しらみなどの頭髪の検査、クッカノンによる各室の消毒と空気清浄（空気清浄機）、手洗いの指導などを実施した。

- ・ こどものけが、応急手当、医師への連絡、緊急時の対応、保護者への連絡、お迎えまでの病児の看護、観察、感染症の予防、予約依頼書による投薬管理
- ・ 夏期保育中のプールの衛生管理、つめの検査、皮膚疾患の視診
- ・ 感染症に関しては近年季節外れに発生するものも多く、発表会等の行事に影響が出るのではないかと危惧したが、大きな影響はなかった。

また、**28年度**から小学校でぎょう虫検査を行わない方向になる事から、園での実施についても園医に確認を行い検討した結果 **H28年度**からは行わないこととした。

職員に関する健康注意

- ・ 職員の手洗い（逆性石鹼による消毒）おむつ交換、排泄時の始末消毒などの徹底）毎月の細菌検査、年1回の健康診断の実施、給食時の配膳時の使い捨ての手袋の着用などの使用設置。
- ・ 吐しゃ物処理時の使い捨てエプロンの着用など、園での対応の意思統一を行なった。

※保健衛生費 402,121-

ウ. 栄養管理

※給食費執行額 6,337,458-

	1日の熱量 (kcal)	1日のたんぱく質 (g)
3才未満児	490 kcal	17.0 g
3才以上児	533 kcal	17.9 g

執行献立内での栄養摂取量も平均を超える位の状況で園児たちの食への関心は深くどの子ども楽しんで食べていた。手作りおやつ、調味料も自然のものを子供の食と安全に気をつけより質の高い給食をこどもに提供することができた。保護者のアンケートでも給食に関しては評価が高く、満足している事が伺える。

予算的にも予定通り執行できた。

*献立作成の特徴と留意点

- ・ 献立では「和食中心」を打ち出し、保護者にもアピールしながら進めた。栄養のバランスと和、洋、中の組み合わせの献立を考慮し、行事食のメニューは視覚でも楽しめるものを取り入れ、豆の皮むき、とうもろこしの皮むきなど子どもたちにも調理参加をしたり食べる楽しみのある献立づくりをした。
- ・ 調理保育をクラスごとに企画して献立と調整をとり、保育の中に取り入れ給食の一部としてみんなで調理して食べることができた。
- ・ 放射性物質に関しては保護者からの不安はなく、一段落した感じであるが、園では量を使う物や汚染が懸念される物については独自に測定、結果を掲示した。
- ・ 27年度ものぞみ保育園、みらい保育園、明德保育園と3園の栄養士が交代で共通献立を作成し、各保育園のお互いの新メニューを取り入れる事を続けている。
- ・ また、業者選択の意見交換を行い、品物と価格の比較など有意義であった。
- ・ 朝7時から夜7時までの保育児に対しても補食の工夫を行なう。
- ・ 27年度も除去食が必要な園児がいたが、保護者と協力をし、少しずつ解除に向け進めている。
- ・ 除去食の園児に対しては、別献立の作成はもちろん、誤食のないよう朝の打ち合わせで必ず伝達をして机を別にして個人トレーの使用など細心の注意を払っている。
- ・ 乳児幼児の発達の考慮で献立をわけたり切り方の配慮をしたり、偏った素材のないような配慮をしている。
- ・ 27年度も、夏期休暇等への対応として他の給食施設での勤務実績のある方に8月限定でお手伝いをお願いし、休暇が取得できる配慮を行った。今年度も様子を見ながら手配を行いたい。
- ・ 各種厨房機器については老朽化が進んでおり、シンクの水道の交換等の修理を実施した。今後も必要に応じて修理・交換を行うが、建て替えを考慮しての入れ替えとしたい。

*保護者への対応

- ・ 乳児、幼児の献立表、給食ニュースの配布。行事献立など写真入ニュースの作成。
- ・ 各クラス懇談会ではその日の献立の試食を出し栄養士も出席し説明、質問を受ける。
- ・ 食の細い子、発育の悪い子、好き嫌いの子などの保護者の相談や保護者との面談もおこない家庭での食事の状態などの記録もして個別に食事状態を把握した。
- ・ 行事献立の写真入ニュースの発行と毎日の給食の展示。

エ) 保 育 保育材料費 1,592,338-

*保育計画（カリキュラム）作成

- 保育課程を中心に養護と教育の両方により各年齢ごとのカリキュラムを作成するようになった。
一年間それをもとにカリキュラム作成して行なったが、やはりその年齢に合うよう、職員達が理解しやすいような様式を見直したりしてよりよいものにするよう意見をききながら作成した。
- 乳児→年間保育計画、月間保育計画、週案、個別カリキュラム作成
乳児責任者を中心に乳児の保育目標をたて話し合いを持ちながら保育計画をたてる。
特に乳児では個別を大切に個々の発達に即した保育を行った。
1才児を18名でのスタートとしたが保育士が月齢別に活動をわけたりしながら個別にしっかり対応していった。複数担任の話し合い、伝達は密に行った。
乳児クラスの話し合いを定期的に行いその状況の確認などしあった。各クラスでおりにふれりトミックのリズム遊戯を取り入れ普段から子供たちに親しませていった。
- 幼児→年間保育計画、月間保育計画、週案、日案カリキュラム作成
リトミックは外部から講師を招いて研修を行うことにより、園全体で取り組むことができた。
4才児、5才児に主任、副主任が担当し、年間計画をたて月案をたて子供達に指導を行なった。
また音楽指導として音楽大学卒のプロの資格をもっている職員に4才児、5才児のピアノ指導など年間を通じて入ってもらって子供達に基礎から教えてもらって全員で曲の合奏ができるようになり生活発表会では保護者にその成果をみていただいた。
また言葉あそびもすっかり職員の中に浸透し、毎日の保育の中に言葉遊びの意識が職員に入り、月1回の設定保育の日は確認をしたりしながら行なってきた。各クラス言葉遊びの年間計画をたて実践できた。また講師の斎藤二三子先生に3カ月に一回きていただき子供たちが楽しんで行なっている様子などみてもらった。
一か月1回幼児クラスの縦割り保育も行い活動をするにより異年齢のつながりがより深まり関わって遊ぶことが上手になった。

*保育の状況

4月→新入児を迎え 89名の園児でスタート。

0歳児3名でのスタートだった。新入児の泣き声の中の保育開始。

3日間に分け0～5才まで保護者懇談会を開く。

さわやかなお天気の中、昨年に引き続き親子遠足を行なった。

今年度も近くの上中原公園で実施したところ好評であった。

5月→今年度も運動会を6月とし、運動会に向け練習に励んだ。

6月→微妙な天候であったが校庭で運動会を実施できた。子どもも保護者も楽しめていた様である。

保育園の園庭に移動動物園がきて小動物にえさをあげたりさわったり抱っこしたり楽しんだ。

7月→年長児の最大イベントお泊り保育。サマーランドで楽しみ、園に戻ってから探検？（園内探検）など楽しいイベントをして保育園でお泊りをして帰る。

8月→今年も夏の暑さは異常で殆ど水遊びとなる。毎日プール遊びをたっぷりとしてお昼寝もして夏バテをすることもなく毎日健康的に夏の遊びを楽しんだ。人数もあまり減らず。

水分補給も小型浄水器をつけ自由に飲ませ、十分な補給が出来た。

9月→9月は予想ほどの暑さにはならず、プールに入れる日もほとんどなかった。運動会を6月に行ったため、暑い中で運動会の練習をしないで済み、あらためて6月の運動会で良かったと思う。

10月→涼しくなり秋らしい過ごしやすい気候の中、芋ほり等の秋の行事を楽しむことができた。

11月→生活発表会を12月に変更したため、発表会の練習に励んだ。今年も季節外れのインフルエンザもあったが、クラス間での感染拡大が防げたので発表会への影響はなかった。

12月→生活発表会を全員参加で実施した。今年度は背景のプロジェクトだけではなく、川井先生作・阿部先生描画の柿の木など、実物の良さも感じながら楽しく行えた。

01月→新年を迎え例年は発表会の準備や練習に迫られる時期であるが、12月に実施したため、落ち着いて進級に向けた取り組みができた。

02月→テーマ（お祭り）に合わせた衣装でもちつき祭りを実施した。

03月→お別れ遠足、お別れ会、卒園式など進級、進学の期待をもって過ごした。

お別れ遠足では10年ぶりにスケートを行った。安全面を考慮し、日本スケート連盟の指導者に指導をお願いした。時間的には子どもたちの疲れ具合も考慮して午前中の1時間であったが大喜びで保育園での最後の遠足を楽しんだ。

*地域交流

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| ・パートナー保育登録 | 今年度は登録を実施しなかった |
| ・いっしょに遊ぼう | 家庭支援センターでの出前保育 |
| ・地域の子育て世帯との交流保育 | 移動動物園、運動会、いも掘り、もちつき、観劇会 |
| ・園庭解放 | 月～金 11時～12時30分 |
| ・小学生との交流 | |
| ・世代間交流、お年寄りとの交流 | 向原デイケアセンター及び東大和ケアセンター |
| ・小中高生の育児体験受け入れ | |
| ・保育所体験 | 地域の子育て親子が保育園体験をする。 |

オ. 園児の安全管理

- ・朝の始業前に行うミーティングでのその日の各クラスの保育予定と安全確認の諸注意、子どもの伝達事項、伝染性疾患の連絡、職員の連絡。給食よりアレルギー児の献立の連絡。
- ・園外保育に行った時の注意事項の確認。
- ・SIDSの注意と職員研修と実践、就寝中の定期的な視診と記録。
- ・保育室内外の障害物の定期点検、園庭整備
- ・非常通報装置による緊急時の通報システム、放送設備の点検
- ・室内の環境整備、危険防止対策
- ・非常灯の器具交換、誘導灯の交換
- ・監視カメラの修理（HD交換）

(2) 職員処遇

年間職員構成表

	園長	主任保育士	保育士	保健師	給食	事務	障害児パート 延長パート	計
4月	1	1	13	1	3	1	11	31
5月	1	1	13	1	3	1	11	31
6月	1	1	13	1	3	1	11	31
7月	1	1	14	1	3	1	10	32
8月	1	1	14	1	3	1	10	32
9月	1	1	15	1	3	1	9	32
10月	1	1	15	1	3	1	9	32
11月	1	1	15	1	3	1	9	32
12月	1	1	15	1	3	1	9	32
1月	1	1	15	1	3	1	9	32
2月	1	1	15	1	3	1	9	32
3月	1	1	15	1	3	1	9	32

27年度は0才児3名でのスタートであったため担任1名でスタートし、0歳時の増加に合わせて担任も増やしていった。

イ) 職員の健康管理

10月～1月までの間に全職員の健康診断を行なった。35歳以上の職員は生活習慣病健診 35歳未満の職員は若年健診を行なった。

- ・乳児担当職員、給食担当職員は毎月1回、全職員は年2回のO-157を含む細菌検査を立川臨床で実施する。
- ・今年もインフルエンザ予防接種をうけた職員の接種費用の一部補助をした。

ウ) 労務管理

- ・就業規則の他に年間12日の自宅研修を与える。その他有給休暇の消化を励行した。
週40時間勤務を遂行するように、事務仕事の省力化を見直し、職員全員が協力するように声かけをし時短推進に努めた。H27年度も有給の取得率は70%以上になった。
27年度も幼児クラスの事務日を設け、事務処理の負担を減らす取り組みをした。幼児クラスの職員からは好評であり、28年度も引き続き実施する事とした。
- ・時間休暇、介護休暇や看護休暇等も多く職員が利用している。
- ・36協定等の締結

エ) 研修、講習

・職場内研修

25年度からことば遊び研修だけではなく、リトミックについても外部講師を呼んで職員への園内研修を実施。また、気になる子どもへの対応に関しても外部講師を呼んで研修を行った。今年度も引き続き実施した。

・外部研修

管理研修→東京都民保協研修、市内保育園長会研修、BCP研修、行政との懇親会、
行政説明研修会、子育て支援研修会、就学前教育プログラム研修、就学支援シート
保育士 →天野式リトミック研修、運動会実技研修、新任職員研修会、発達障害児支援体制研修、
国語研修会、保育技術研修、保育所障害保育担当研修、東社協保育部会
市内実務担当者会議、第三者評価研修、新人フォローアップ研修、保育所事故予防研修
看護師 →衛生管理講習会、感染症マニュアル研修、アレルギー研修、
給食職員→給食施設栄養管理講習会、アレルギー相談実務研修、食育実践研修
食中毒の発生状況と自主衛生管理、給食研究会、食品衛生実務研修
事務員 →労務関係の研修

オ) 職員会議

※会議費 99,096

- ・毎月1回の職員会議→全職員参加 行事計画、懸案事項、研修会伝達
パート会議→午前、午後のパート会議、行事計画、仕事の意見等
- ・リーダー会議→園長、主任、副主任、各クラスリーダー、栄養士、看護師が参加し各職種毎の園の主要な全体的な案件事項、行事等の方針等を話し合い大筋を決めた。
- ・勉強会→毎月勉強テーマを計画をたて計画に沿って出席する職員を決め勉強をした。
- ・カリキュラム会議→月のカリキュラムの反省、来月の予定など事前にクラスでの話し合いをして説明をする。またテーマ毎の遊びの実践、体育遊び、リトミック、言葉遊び
年間計画、実践報告、園児の状況、クラスの状況等の伝達と話し合い。
- ・朝のミーティング→就業前に全員で一日の予定、伝達事項、注意事項などについて話し合う
- ・行事の実行委員会→担当の職員による行事の企画、実践
- ・園内管理職会議→園長、主任、副主任、乳児、幼児責任者との方向会議を懸案毎に行った。
- ・栄養士、0才児担当者との離乳食会議→栄養士、0才保育士、看護師出席で行った。
- ・3園（のぞみ保育園、みらい保育園）栄養士会議、事務会議、看護師会議、食育会議、乳幼児責任者会議、主任会議（行事予定打ち合わせ会議）
- ・法人合同管理職会議→理事長、園長、主任、副主任、責任者、
- ・3園経営者会議 理事長、園長は先方の都合により行わなかった。

カ) 福利・厚生

※福利厚生執行費 843,926

- ・今年度の職員の親睦を兼ねた研修旅行を行いコミュニケーションをとることができその後の仕事にも活気がでてきていい研修であった。
- ・忘年会の補助、打ち上げなどの補助、役員との懇親会・東社協の労災上乗せ保険結婚のお祝い、インフルエンザのワクチン注射の補助。

2. 施設業務運営

(1) 運営関係

新制度への移行にともない地域区分が 8%から 12%となった。サービス推進費についても実施可能な項目をすべて実施したため大幅な減額とはならなかった。0 才児 3 名スタート等により収入面では厳しく、園舎や機器の老朽化による支出もあったが、1 才児の受け入れを増やし職員の適正配置をすることにより適正に運営できた。

(2) 児童処遇

事業費支出では保育材料も予算どおりの執行であり、遊具も発育に適したものを見直しをして移動したり、壊れているのを処分したりして新しく購入をしたり、整備をした。予算の範囲内で無理なく執行できた。

また、給食は「和食」を中心とし、添加物の少ない素材を使い、決められた予算の範囲で執行できた。手作りをすることにより価格を下げることができ、手作りでできたてのおいしさを再確認できた。子どもたちも好き嫌いなく食欲旺盛であった。保健衛生では毎月の布団乾燥車での乾燥を行なった。二次感染を予防するため園内での衣服などの処理はしない方法も昨年同様に継続した。今年度もバイカットによる除菌・消毒を実施した。

就学支援センター職員とも定期的に訪問をしてもらって日常の様子をみてもらったりアドバイスをいただいた。

(3) 設備関係

備品購入 パソコン

固定資産物品 園舎入口のオーニング

(4) 修繕関係

今年も園舎の基本的な修理、機器整備を中心に行なった。

床や壁の修理など老朽化によるものは随時実施するとともに、園庭の整備などを行い、安全面だけでなく、環境面での向上をはかった。

(5) 災害対策

災害用食料品の補充入れ替えを実施。毎月 1 回の避難訓練に必ず消火訓練を行なった。

9 月には引き渡し訓練を行い、訓練前には防災グッズ等の展示をし、意識の向上を行った。

避難用品をもう一度見直しをし、保管場所の確認、非常食品の賞味期限の点検も行う。

(6) 平成 27 年度実施行事

平成 27 年度実施行事

月	日	実 施 行 事	保 健 行 事
4 月	2 日 9,10 日 24 日 25 日 30 日	入園進級式 各クラス懇談会 誕生会 親子遠足 こいのぼり会	・身体測定 ・0 才内科健診
5 月	1 日 29 日	こいのぼり会 誕生会	・0 才内科健診 ・全園児検診
6 月	6 日 12 日 27 日 26 日	運動会 移動動物園 卒園児交流 誕生会	・0 才内科健診 ・歯科衛生指導
7 月	31 日 17～18 日	誕生会 ぞうぐみ宿泊保育	・0 才内科健診
8 月	28 日	誕生会	・0 才内科健診
9 月	1 日 25 日 11 日	引き渡し訓練 誕生会 カレーパーティー	・0 才内科健診
10 月	2 日 23 日 29 日	園外保育 誕生会 いもほり	・全園児健診 ・ぎょうちゅう検査
11 月	13 日 27 日	七五三集会 誕生会	・0 才内科健診 ・視力検査
12 月	5 日 18 日	生活発表会 クリスマス誕生会	・0 才内科健診 ・うがい指導
1 月	15 日 22 日 30 日	観劇会 誕生会 もちつきまつり	・0 才内科健診
2 月	9～12 日 26 日	懇談会 誕生会	・0 才内科健診
3 月	3 日 11 日 5 日 11 日 26 日	ひな祭り誕生会 お別れ遠足 新入園児説明会 お別れ会、食事会 卒園式	・0 才内科健診

毎月 1 回行事 避難訓練、全園児身体測定 毎月 2 回 体育指導、年長児 習字

(7) 地域社会との連携

事業計画に基づいて地域子育て支援を積極的に取り組んだ。年間計画をたて管理職だけでなく全職員が交代で一緒に取り組んでいくということで園全体で行い職員に意識付けができた。実際に家庭で子育てをしている親子が保育園に来て同年令の子ども達と一緒に生活をする事により子どもの姿や食事、排泄、病気などの相談を受け看護師、栄養士などが直接話をしたり必要資料などを渡した。また保育士よりいろいろな遊び(手遊び、指遊び、絵本の読み聞かせ、遊具)と一緒にすることにより家庭でもできるよう資料を渡したりした。同じ人が何回も利用する姿も見られた。

- ・月1回のみんなで遊ぼうの出前保育
- ・向原ダイケアセンターとの交流に加え、今年度は東大和ケアセンターとも交流を初めた。
- ・園庭解放
- ・体験保育

平成27年度から、サービス推進費に関する大幅な見直しがあったが、地域活動については、職員の配置など無理のない範囲で可能なものは引き続き実施した。

* 第三者評価について

第三者評価については平成26年度に実施しているため、平成27年度は行わなかった。次回は平成29年度に実施したい。

(8) その他

今年度も職員の処遇改善を実施した。職員にとっては報われる事もあった。また、今年度は建替え用地を探すことに注力したが、条件に合う土地は見つかっていない。現在、借地も視野に入れて検討しているがコストや将来的な事を考えると購入か市有地、公有地の利用が望まれる。今後も引き続き専門業者に頼むなど早急に土地を探し、建て替えを実現したい。また今年度は新制度への移行により、子どもによって保育時間が違うなど職員の負担が増えたが、全職員の努力、そして協力により無事に運営する事ができた。あらためて職員に感謝し、引き続き適正な運営を行いたい。

2016.05.13 作成